

かかりつけ医(かかりつけ医療機関)と 専門医(専門医療機関)

★現在、国は国民の病院へのかかりかたについて、かかりつけ医療機関と専門医療機関が役割分担しながら協力して患者さんを診るように、指導を強化しています。

★旭川赤十字病院は専門医療機関です。それぞれの科(内科・小児科8科、外科系11科)が高度に専門化された 外来、入院治療をおこなっています。



★ふだんはかかりつけ医に通院し、診療を継続します。専門的な検査や治療が必要な時にかかりつけ医から紹介を受けて 専門医療機関(日赤病院など)が診療します。

★専門医療機関で診断、治療方針が決定し、あるいは手術をおこなってその病気が治ったら、その内容を紹介状に書いて、再びかかりつけ医療機関で治療を継続します。

なぜ、そんな仕組みが必要なのでしょう？裏面で解説します！

Q1. 専門医療機関の良いところ、悪いところは？

良いところは診断や治療に必要な高額な機器があり、その病気を専門に治療する医師や医療スタッフがそろっていることです。

悪いところは、各診療科では専門の病気しか診ません。

「腹も胸も頭も悪いところはみんな診てくれ」と言われても、専門の違う病気は診られませんし、現実に診る時間もありません。待ち時間も長く、1日では終わらないこともしばしばあります。

Q2. かかりつけ医療機関の良いところ、悪いところは？

良いところは、腹も胸も頭も、悪いところは皆診て診察してくれることです。その上で「これは〇〇病院の〇〇科で専門的な検査が必要だ」と判断された場合は、紹介状を書いて受診手続きをしてくれます。

またあなたの家の事情や生活も把握した上できめ細かく治療をします。

悪いところは、大きな病院のような沢山の機械や治療設備が無く、治療の範囲は限られていることです。

Q3. 賢い病院の利用法は？

家の近くに気心の知れたかかりつけ医を持って、普段はそちらにかかります。待ち時間も短いし、風邪でも腹痛でもちょっとしたけがでも診てくれます。

精密検査が必要だったり専門の治療が必要と判断された場合は、かかりつけ医から**紹介状**をもらってその専門科にかかります。どこの科にかかれば良いのかは、かかりつけ医が判断してくれるので、病院でたらいまわしにされることはありません。

診断がつき、治療のめどがたったら、また**紹介状**をもらってかかりつけ医に戻ります。**同じ治療を続けるのであれば**、事情も良く分かった、待ち時間の少ない、ほかの具合の悪いのもいっしょに診てくれる、かかりつけの先生が頼りになります。

**かかりつけ医と専門医は常に連絡を保ちながら
いっしょにあなたを診察・治療します。
どちらも主治医です。
どちらも責任をもってあなたを診つづけます。**